



平成24年9月21日

各 位

会社名 株式会社 A C K グループ
代表者名 代表取締役社長 廣 谷 彰 彦
(JASDAQ・コード番号2498)
問合せ先 取 締 役 平 山 光 信
経営管理本部長
TEL 03-6311-6641

新たな中期経営計画「ACKG2013」の策定に関するお知らせ

当社グループは、このたび、2013年9月期～2015年9月期（3ヵ年）における中期経営計画「ACKG2013」を下記のとおり策定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. これまでの経営計画

ACKグループは2006年8月の設立時に、経営計画ACKG ONEを策定し、公共インフラに対する総合コンサルティング事業を中心に民間、海外へと業容の拡大を図りました。その結果、3年目となる2009年9月末に売上高300億円という目標を、2年前倒しでほぼ達成したことから、新たに中長期経営戦略ACKG2010を策定し、海外、国内公共、国内民間の3軸それぞれの分野で既存・新規両事業の強化を目指してまいりました。

2. 事業環境に対する認識

国、地方の財政難が続く一方で社会保障費の増大が予測され、今後の国内公共事業予算、ODA予算は不透明な状況です。このような状況のなかで、国内においては、より効率的かつ効果的な社会インフラの保全や国土・地域の防災、持続可能な社会づくりが求められています。また、必要な社会インフラの整備・維持管理には今まで以上に民間資金を活用することが予測されます。

海外においては、より現地に根ざした技術・サービスの提供が求められています。また、高いインフラ整備需要に対応する投資が不足しており、PPPなどの民間資金を活用したインフラ整備が今後増大すると予測されます。

3. 中期経営計画「ACKG2013」の概要

このような状況を踏まえ、当社グループは、2020年のビジョンおよび2013年9月期から2015年9月期の3ヵ年の中期経営計画である、「ACKG2013」を策定いたしました。

中期経営計画「ACKG2013」の詳細については添付資料をご参照願います。

以 上

中期経営計画「ACKG2013」

1. ACKGビジョン（2020年）

■スローガン

社会インフラ創造企業 ～自らが社会を創造する担い手となる～

- ・受動型ビジネスから主導型ビジネスへの転換
- ・自らが投資し、事業者としてインフラビジネスを推進

- ※ 社会インフラとは、道路、河川、橋梁、鉄道、都市、建築物から電気、上下水道、ガス、電話など社会基盤を形成するものであり、施設、設備等の「ハード」と枠組み、IT等の「ソフト」を含む。
- ※ 「受動型ビジネスから主導型ビジネスへの転換」とは、インフラ事業全般に対して、発注者からの要請に対応するという受け身のビジネスから、自らがインフラ事業の課題を主体的に企画・提案し、ビジネス展開をすることを意味する。

■基本方針

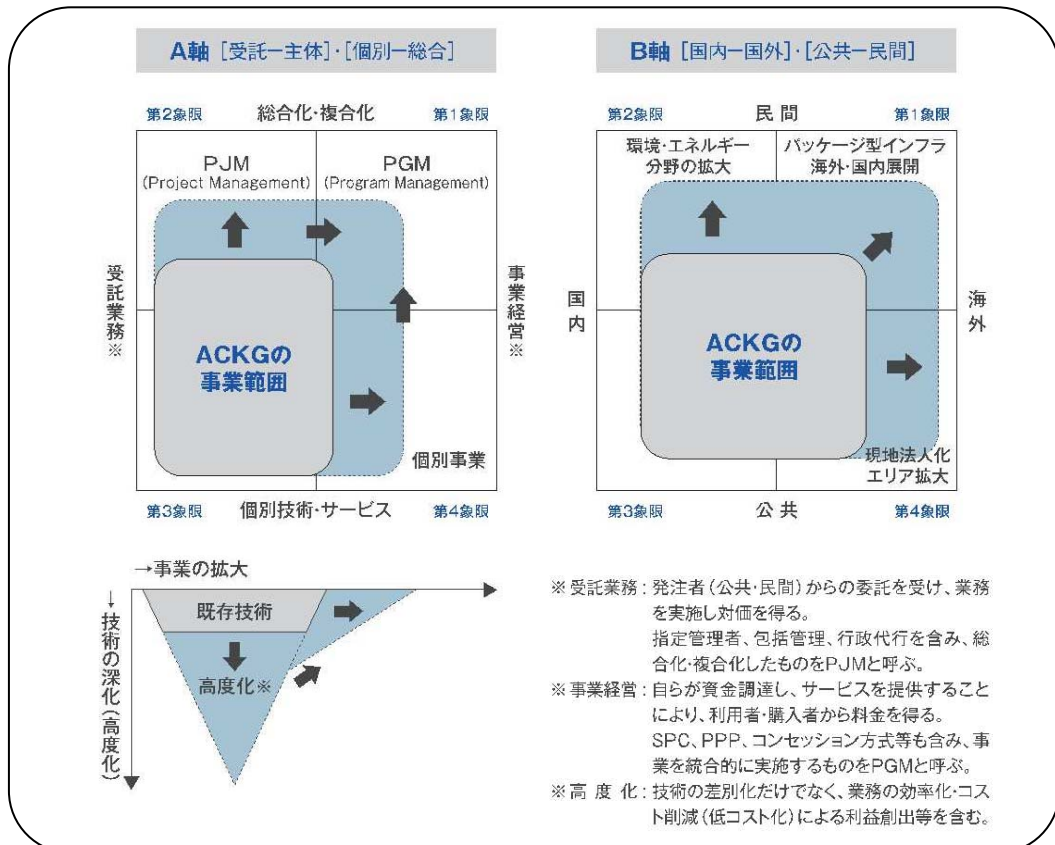
- 強みの活用： 交通運輸事業、海外事業の強みを活かし、グループの力を結集し、ワンストップで推進
- 事業創造： 「技術の深化」と「新たな事業創造」により、公共から民間へ、世界へ
- 育成と連携： 国内外から人が集い、育ち、国内外シームレスな共同体の実現

■目標

- 売上高： 500億円以上
- 営業利益： 20億円（対売上高4.0%）以上
- 組織・人材： グローバル人材150人以上増加、女性管理職15人以上増加

- ※ グローバル人材とは、日本国内、海外を問わずグローバルに活躍できる人材を指す。
- ※ 女性管理職は、“性別等を問わず働きやすい企業”や“多様な感性を活用する企業”を目指すための指標として設定している。

■事業開拓の方向性



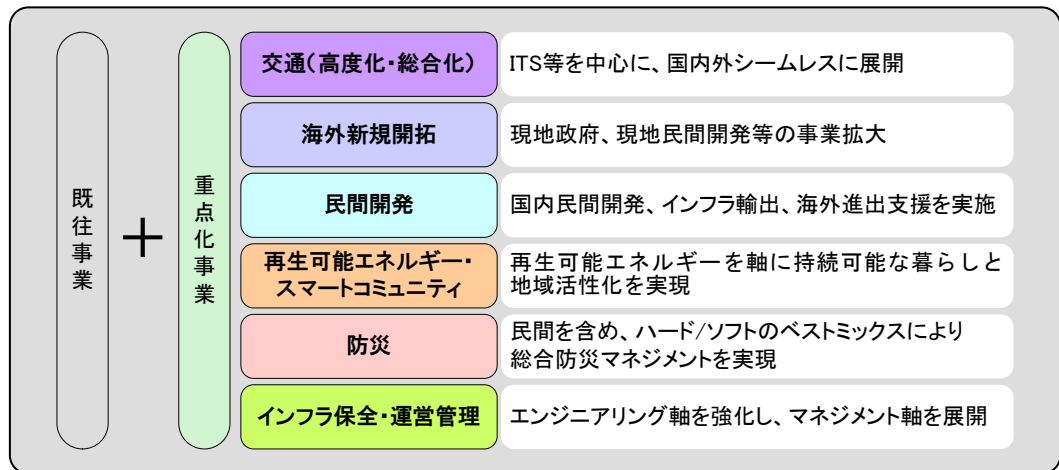
2. 3ヵ年経営計画（3年後）

■目標

売上高 : 370億円
営業利益 : 8.6億円（対売上高2.3%）
組織・人材：グローバル人材50人、女性管理職5人以上増加

■事業戦略

グループの強みを活かし、「技術の深化」と「新たな事業創造」を推進する。
推進にあたっては、下記の6つの重点化事業を実施する。



■組織・人材

組織：「技術の深化」と「新たな事業創造」を実現するとともに、海外事業において、現地に根ざしたグローバル展開を推進するため、グループ内外の連携を強化する。
人材：「技術の深化」と「新たな事業創造」を実現する人材やグローバル人材の確保・育成を強化する。

■財務・基盤整備

経営効率化やグローバルな連携に資する基盤（IT・仕組み・制度）を構築する。

以上